

西洋史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
西洋史特論Ⅰ	ウィリアム・マーシャルとその世界	2	有光 秀行	前期 水曜日 3講時
西洋史特論Ⅱ	ドイツ司法とナチズム責任	2	熊野 直樹	前期集中 その他 連講
西洋史特論Ⅲ	中世後期ドイツの政治と社会 —帝国都市ニュルンベルクを中心に—	2	阿部 ひろみ	後期 金曜日 3講時
比較文化史学特論Ⅰ	ソ連現代史研究の諸問題	2	寺山 恭輔	後期 金曜日 2講時
西洋古代・中世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中近世史料研究	2	有光 秀行	前期 水曜日 4講時
西洋古代・中世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中近世史料研究	2	有光 秀行	後期 水曜日 4講時
西洋近現代史研究演習Ⅰ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	前期 月曜日 2講時
西洋近現代史研究演習Ⅱ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	後期 月曜日 2講時
比較文化史学研究演習Ⅰ	ソ連史文献研究Ⅰ	2	寺山 恭輔	前期 金曜日 4講時
比較文化史学研究演習Ⅱ	ソ連史文献研究Ⅱ	2	寺山 恭輔	後期 金曜日 4講時

科目名：西洋史特論 I / European and American History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM13303, 科目ナンバリング：LGH-HIS612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ウィリアム・マーシャルとその世界

2. Course Title (授業題目)：William Marshal and his world

3. 授業の目的と概要：この授業は、「世界で最高の騎士」とたたえられたウィリアム・マーシャルの生涯をたどりながら、ブリテン諸島と大陸ヨーロッパの関係の変化など、12 世紀から 13 世紀初頭の西北ヨーロッパ世界を理解することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to understand the northwestern European society in the twelfth and early thirteenth centuries through the life of William Marshal, 'the best knight in the world'.

5. 学習の到達目標：12 世紀～13 世紀初頭の西北ヨーロッパ世界におこった大きな変化を理解できるようになることと、歴史の中の人物について理解できるようになることを、目標とします。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are understanding .great changes of the northwestern European society in the twelfth and early thirteenth centuries and also understanding people in their historical context.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 1170 年まで (1)
3. 同上 (2)
4. 同上 (3)
5. ヘンリ 2 世のもとで (1)
6. 同上 (2)
7. 騎士の社会 (1)
8. 同上 (2)
9. 同上 (3)
10. リチャド 1 世のもとで (1)
11. 同上 (2)
12. ジョン王のもとで (1)
13. 同上 (2)
14. 同上 (3)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) とレポート (50 パーセント)。

9. 教科書および参考書：

Google Classroom で指示します。

10. 授業時間外学習：指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：西洋史特論Ⅱ／ European and American History (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：熊野 直樹

コード：LM98828, 科目ナンバリング：LGH-HIS613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ドイツ司法とナチズム責任

2. Course Title (授業題目) : German judiciary and dealing with the Nazi past

3. 授業の目的と概要： 本授業では、ドイツを事例に「法治国家」からナチス「不法国家」への移行過程における司法の役割について検討し、その司法がナチズム責任として戦後東西ドイツにおけるナチズム裁判でどのように裁かれたのかについて検討を行う。以上を通じて、司法と政治との緊張関係について理解を深めるとともに、政治からの「司法権の独立」の持つ意味を歴史的に深めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : While man often tends to think of Nazi Germany as a zone of lawlessness, the Nazi regime and its policies of persecution were maintained by judges, lawyers and jurists. This course focuses on why German judiciary were attracted to the Nazi Regime, how these legal professionals lent their skills and knowledge to a system of injustice, and whether they were held accountable for their Nazi-era action after World War II.

5. 学習の到達目標： ・ドイツ司法の歴史について学び、ドイツ現代史に関する理解を深める。

・ドイツ司法とナチズム責任について学び、司法（正義）について考える視座を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To deepen understanding of German modern history by leaning about German judiciary.

To get a perspective to think about Justice by learning about German judiciary and dealing with the Nazi past.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ近現代史の概説ではなく、主に裁判所をはじめとしたドイツ司法とナチズムとの関係及び戦後東西ドイツ及び統一ドイツの司法のナチズム責任について論じる。受講者の数や要望等によって、内容・方法が若干変更される可能性がある。

第1回 プロローグ：ガイダンス（授業内容・方法、単位認定の方法等の説明）

第2回 ナチス「不法国家」の成立過程（1）：ヴェーバーの支配の諸類型

第3回 同上（2）：ヴァイマル共和国におけるドイツ司法

第4回 同上（3）：ヒトラーの権力掌握とドイツ司法

第5回 同上（4）：ドイツ司法の強制的同質化

第6回 同上（5）：「合法的支配」から「カリスマ支配」へ

第7回 同上（6）：政治司法としてのドイツ司法

第8回 戦後ドイツにおけるナチズム裁判と「ベルリンの壁」裁判（1）：二つのニュルンベルク裁判

第9回 同上（2）：旧東ドイツにおける司法とナチズム裁判

第10回 同上（3）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（上）

第11回 同上（4）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（中）

第11回 同上（5）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（下）

第13回 同上（6）：統一ドイツにおける「ベルリンの壁」裁判

第14回 現代ドイツ司法とナチズム責任

第15回 まとめと評価

8. 成績評価方法：

第15回の授業時間中に理解度を確認する試験を行う（100%）。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。レジュメと板書による。参考書及び参考文献は、以下の通り：

ジェーン・キャプラン著、藤井美佐子訳、熊野直樹監修『14歳から考えたいナチ・ドイツ』すばる舎、2023年；田村栄子・星乃治彦編『ヴァイマル共和国の光芒—ナチズムと近代の相克—』昭和堂、2007年；熊野直樹「戦後ドイツにおける戦争の記憶と現在」九州大学法政学会『法政研究』第73巻第2号、2006年（open access）；「東西ドイツ司法と『過去の克服』」『法政研究』第71巻第3号、2005年（open access）。

10. 授業時間外学習： 参考書及び参考文献を事前に読んでおくことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

なし。

科目名：西洋史特論Ⅲ／ European and American History (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LM25306, 科目ナンバリング：LGH-HIS614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 中世後期ドイツの政治と社会—帝国都市ニュルンベルクを中心に—
2. Course Title (授業題目) : Politics and Society of the Late Medieval Germany- A Case Study of the Imperial City of Nuremberg
3. 授業の目的と概要： 中世後期ドイツの政治的構造および社会の状況について、主に帝国都市ニュルンベルクのケースを取り上げて説明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course explains the political structure and the social situation of the late medieval Germany, focusing on the imperial city of Nuremberg.
5. 学習の到達目標： 中世後期ドイツの政治・社会について専門知識を深める。歴史学で研究対象として扱われる様々なテーマについて知識を得る。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of this course are understanding the political structure and the social situation of the late medieval Germany and also learning a variety of themes in the historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ヨーロッパ史における中世後期ドイツ
 2. 帝国都市ニュルンベルクとは
 3. ニュルンベルクの市参事会制度
 4. ニュルンベルクの商業
 5. ニュルンベルクの手工業
 6. ニュルンベルクのユダヤ人
 7. ニュルンベルクと教会
 8. ニュルンベルクと教会文化
 9. ニュルンベルクと周辺諸侯
 10. ニュルンベルクと帝国議会
 11. ニュルンベルクと同盟関係
 12. ニュルンベルクと戦争
 13. ニュルンベルクと大学
 14. ニュルンベルクと出版文化
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加状況 (コメントシートの提出) : 40 パーセント・期末レポート : 60 パーセント
9. 教科書および参考書：

授業内で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習： 講義内容を復習すること。適宜、授業内で紹介された参考文献や概説書を自ら確認すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

なし。

科目名：比較文化史学特論 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25202, 科目ナンバリング：LGH-HIS616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連現代史研究の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Challenges in the study of Soviet Contemporary History
3. 授業の目的と概要：ソ連という国家が成立する契機となったロシア革命から 100 年以上経過したが、約 70 年にわたるソ連の歴史研究は、30 年前のソ連崩壊を契機に進展を遂げてきた。本授業ではソ連国内外におけるソ連史研究の歩みを振り返り、特にスターリン時代の極東地方に焦点をあて、その歴史を概観するとともに、今後の研究を展望する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：More than 100 years have passed since the Russian October Revolution formed the USSR in 1922. The Study of Soviet history, though it progressed over the first seven decades, advanced especially after its collapse 30 years ago. This course begins with tracing the history of Soviet Studies in and out of Russia for about a century, and focuses on the Soviet far eastern region of the Stalin era.
5. 学習の到達目標：1. ロシア国内外におけるソ連研究の歴史、現状を理解する。
2. スターリン時代のソ連極東地域の発展過程を理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. The Purpose of this course is to understand the history of Soviet Studies in and out of the Soviet union especially after the collapse of Soviet Union.
2. The Purpose of this course is to understand the development process of the Soviet far East during the Stalin Era.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ソ連時代、ソ連崩壊後のソ連史研究
 3. ソ連極東とは？ アムール総督府時代、ロシア革命とロシア極東
 4. シベリア出兵、極東共和国、1920 年代のソ連極東、スターリンの上からの革命とソ連極東
 5. 満州事変とソ連指導部、兵士の反応
 6. 鉄道輸送と極東への動員、鉄道の軍事化
 7. 潜水艦・魚雷艇建造と極東への搬送
 8. 中央と地方当局による発疹チフス蔓延防止措置
 9. 備蓄の構築と極東地方における食料供給
 10. ソ連の不可侵条約政策と日本、ポーランド
 11. ソ連極東における気象観測・通信網の整備
 12. ソ連極東沿岸における要塞、砲台建設
 13. ダリストロイの形成、国境紛争
 14. 独ソ戦争時代のソ連極東. 1945 年の日ソ戦争と北方領土問題
 15. 第二次世界大戦後のソ連極東
 16. 総括
8. 成績評価方法：
レポート 50%、出席 50%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。
No textbooks will be used. References are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：紹介する参考文献を読んでもらうこと。
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅲ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM13405, 科目ナンバリング：LGH-HIS619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。
第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅳ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Semina) Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM23405, 科目ナンバリング：LGH-HIS620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。
第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋近現代史研究演習 I / History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM11203, 科目ナンバリング：LGH-HIS621J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論

2. Course Title (授業題目) : History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)III

3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.

5. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握

・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp contents of the original text accurately.

・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 中間的総括に向けての課題の整理
15. 中間的総括

8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

9. 教科書および参考書：

現在のテキストは、バリントン・ムーア『独裁と民主政治の社会的起源』宮崎隆次・森山茂徳・高橋直樹訳、岩波文庫、2019年。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科棟 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ／History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM21203, 科目ナンバリング：LGH-HIS622J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論
2. Course Title (授業題目)：History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)III
3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.
5. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp contents of the original text accurately.
・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. テキストの検討・討論(1)a
 3. テキストの検討・討論(1)b
 4. テキストの検討・討論(1)c
 5. テキストの検討・討論(1)d
 6. テキストの検討・討論(1)e
 7. 小括(1)
 8. テキストの検討・討論(2)a
 9. テキストの検討・討論(2)b
 10. テキストの検討・討論(2)c
 11. テキストの検討・討論(2)d
 12. テキストの検討・討論(2)e
 13. 小括(2)
 14. 総括に向けての課題の整理
 15. 総括
8. 成績評価方法：
出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%
9. 教科書および参考書：
テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科棟5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：比較文化史学研究演習 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM15405, 科目ナンバリング：LGH-HIS623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 I
2. Course Title (授業題目) : Reading texts of Russian and Soviet History I
3. 授業の目的と概要：ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことで、ロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。ロシア語に関しては、受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read Russian and English texts about Russian and Soviet history with accuracy and rapidity and expand their vocabulary. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：1. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。
2. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : 1. Students will develop the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Students will simultaneously learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数配布し、発表すること。以下、毎週同じ。
8. 成績評価方法：
授業への出席 (50%) と報告の内容 (50%) によって判定する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
No textbooks will be used.
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ／ Comparative Studies of Cultural History(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

semester：1学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25405, 科目ナンバリング：LGH-HIS624J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 II
2. Course Title (授業題目)：Reading text of Russian and Soviet History II
3. 授業の目的と概要：前期と同じ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Russian and English texts about Russian and Soviet history with accuracy and rapidity and expand their vocabulary. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：前期と同じ
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students will develop the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Students will simultaneously learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
前期と同じ
8. 成績評価方法：
前期と同じ
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
No textbooks will be used.
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .